

令和4年度水道局運営方針の改定履歴

(令和5年3月改定)

改定箇所	改定後	改定前	改定理由等
<p>具体的取組 2-1-1 【浄・送・配水施設の耐震化の推進】</p>	<p>〔当年度の取組内容〕 (取・浄水施設) 上町断層帯地震対策としての耐震整備が完了していない庭窪浄水場1系及び豊野浄水場を除く施設の耐震整備計画の策定 ・耐震化工事中の給水安定性確保にかかる検討及び(淀川を水源とする浄水場の最適配置の議論を踏まえた上で)耐震整備計画の策定(2023(令和5)年度まで継続)</p> <p>(配水施設) 上町断層帯地震対策としての施設の耐震整備計画の策定 ・耐震化工事中の給水安定性確保にかかる検討及び耐震整備計画の策定(2023(令和5)年度まで継続)</p> <p>〔プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)〕 (取・浄水施設) 豊野浄水場の浄水処理系統の取・浄水処理施設の耐震整備 ・耐震化を完了</p>	<p>〔当年度の取組内容〕 (取・浄水施設) 上町断層帯地震対策としての耐震整備が完了していない庭窪浄水場1系及び豊野浄水場を除く施設の耐震整備計画の策定 ・耐震化工事中の給水安定性確保にかかる検討及び(淀川を水源とする浄水場の最適配置の議論を踏まえた上で)耐震整備計画の策定(～3月)</p> <p>(配水施設) 上町断層帯地震対策としての施設の耐震整備計画の策定 ・耐震化工事中の給水安定性確保にかかる検討及び耐震整備計画の策定(～3月)</p> <p>〔プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)〕 (取・浄水施設) 豊野浄水場の浄水処理系統の取・浄水処理施設の耐震整備 ・耐震化を完了 上町断層帯地震対策としての耐震整備が完了していない庭窪浄水場1系及び豊野浄水場を除く施設の耐震整備計画の策定 ・策定を完了</p>	<p>当該計画については、経年化対策も含めた中長期計画としてとりまとめることとし、これに伴い策定スケジュールを見直したため。</p>

	<p>(配水施設) 柴島上系の配水施設 1 か所の耐震化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震化を完了 <p>異配水場の配水施設 1 か所の耐震整備 (南海トラフ巨大地震レベル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計契約を締結 	<p>(配水施設) 柴島上系の配水施設 1 か所の耐震化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震化を完了 <p>異配水場の配水施設 1 か所の耐震整備 (南海トラフ巨大地震レベル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計契約を締結 <p><u>上町断層帯地震対策としての施設の耐震整備計画の策定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・策定の完了 	
--	--	---	--

改定箇所	改定後	改定前	改定理由等
<p>具体的取組 2-3-1 【停電対策の推進】</p>	<p>〔当年度の取組内容〕 残り4か所の配水施設の自家発電設備の燃料タンクの増強計画の策定と民間企業と連携した燃料調達の仕組みの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料タンク増強の可能性の検討及び燃料タンク増強の計画の策定(2023(令和5)年度まで継続) ・民間企業と連携した燃料調達の仕組みの検討(～3月) <p>〔プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)〕 柴島浄水場3系の施設運転用自家発電設備の整備【改定履歴あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度再入札実施に向けた発注準備の完了 <p>住吉配水場及び住之江配水場の施設運転用自家発電設備の燃料タンクの増強【改定履歴あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度再入札実施に向けた発注準備の完了 	<p>〔当年度の取組内容〕 残り4か所の配水施設の自家発電設備の燃料タンクの増強計画の策定と民間企業と連携した燃料調達の仕組みの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料タンク増強の可能性の検討及び燃料タンク増強の計画の策定(～3月) ・民間企業と連携した燃料調達の仕組みの検討(～3月) <p>〔プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)〕 柴島浄水場3系の施設運転用自家発電設備の整備【改定履歴あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度再入札実施に向けた発注準備の完了 <p>住吉配水場及び住之江配水場の施設運転用自家発電設備の燃料タンクの増強【改定履歴あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度再入札実施に向けた発注準備の完了 <p><u>残り4か所の配水施設の自家発電設備の燃料タンクの増強計画の策定と民間企業と連携した燃料調達の仕組みの検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・策定を完了 	<p>当該計画については、経年化対策も含めた中長期計画としてとりまとめることとし、これに伴い策定スケジュールを見直したため。</p>

改定箇所	改定後	改定前	改定理由等
具体的取組 2-4-1 【浸水対策の推進】	<p>〔当年度の取組内容〕</p> <p>浸水レベルに対してハード整備が現実的と判断される施設に対するハード整備に関する計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高潮発生時における浸水被害想定の詳細検討（～12月） ・風水害ごとの浸水被害想定を踏まえたハード整備の現実性検討及び耐水化計画の策定（<u>2023（令和5）年度まで継続</u>） <p>〔プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)〕</p> <p>柴島浄水場上系配水施設の耐水化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事完了 	<p>〔当年度の取組内容〕</p> <p>浸水レベルに対してハード整備が現実的と判断される施設に対するハード整備に関する計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高潮発生時における浸水被害想定の詳細検討（～12月） ・風水害ごとの浸水被害想定を踏まえたハード整備の現実性検討及び耐水化計画の策定（<u>～3月</u>） <p>〔プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)〕</p> <p>柴島浄水場上系配水施設の耐水化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事完了 <p><u>浸水レベルに対してハード整備が現実的と判断される施設に対するハード整備に関する計画の策定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>策定完了</u> 	<p>当該計画については、経年化対策も含めた中長期計画としてとりまとめることとし、これに伴い策定スケジュールを見直したため。</p>

改定箇所	改定後	改定前	改定理由等
<p>取組項目 2-3 【効果的・効率的な事業運営（浄水場の施設能力の適正規模化と大阪府域内の他の浄水場との連携の検討）】</p>	<p>〔当年度の取組内容〕 （取組の内容） ・柴島・庭窪・豊野の3つの浄水場について、分散配置のメリットをいかすとともに将来にわたる安定供給の観点も考慮した上で、施設能力の適正規模化を前提とする中長期的な整備計画の策定に向けて、淀川を水源とする大阪府域内の他の水道事業体と浄水場の最適配置に関する協議を進める。</p> <p>・本市の浄水施設の耐震化工事に伴う機能停止期間中の給水安定性の確保を他の水道事業体と連携して行うことで、適正規模化に伴い廃止を予定している本市の浄水施設の廃止時期の前倒しや段階的な一部休止による運転・維持管理費用の節減の可能性について検討する。</p> <p>・当年度前半までに、淀川を水源とする大阪府域内の他の水道事業体と、お互いの浄水場更新時期や各年度での予備力や水需要予測等を踏まえた浄水場の最適配置に関する協議を進め、その内容を浄水場の中長期的な耐震整備スケジュールに反映する。</p> <p>（目標） ・大阪府域内の他の水道事業体との連携を踏まえた浄水場の中長期的な耐震整備スケジュールを策定する。</p>	<p>〔当年度の取組内容〕 （取組の内容） ・柴島・庭窪・豊野の3つの浄水場について、分散配置のメリットをいかすとともに将来にわたる安定供給の観点も考慮した上で、施設能力の適正規模化を前提とする中長期的な整備計画を策定する。</p> <p>・淀川を水源とする大阪府域内の他の水道事業体と浄水場の最適配置に関する協議を進め、その内容を浄水場の中長期的な整備計画の中に反映する。</p> <p>・本市の浄水施設の耐震化工事に伴う機能停止期間中の給水安定性の確保を他の水道事業体と連携して行うことで、適正規模化に伴い廃止を予定している本市の浄水施設の廃止時期の前倒しや段階的な一部休止による運転・維持管理費用の節減の可能性について検討する。</p> <p>・当年度前半までに、淀川を水源とする大阪府域内の他の水道事業体と、お互いの浄水場更新時期や各年度での予備力や水需要予測等を踏まえた浄水場の最適配置に関する協議を進め、その内容を年度末までに策定する浄水場の中長期的な整備計画の中に反映する。</p> <p>（目標） ・大阪府域内の他の水道事業体との連携を踏まえた浄水場の中長期的な整備計画を策定する。</p>	<p>中長期的な整備計画について、当初は上町断層帯地震対策としての施設の耐震整備計画として策定する予定であったが、地震対策だけでなく、経年化対策等も含めた施設整備全体の中長期計画としてとりまとめることとし、これに伴い策定スケジュールを見直したため。</p>

(令和5年2月改定)

改定箇所	改定後	改定前	改定理由等
具体的取組 2-3-1 【停電対策の推進】	〔アウトカム(成果)指標〕 柴島浄水場3系の施設運転用自家発電設備の整備 ・ <u>2023(令和5)年度中:設計契約を締結</u> ・2025(令和7)年度中:設置完了 〔当年度の取組内容〕 豊野浄水場の施設運転用自家発電設備の整備 ・ <u>施設運転用自家発電設備の燃料貯蔵タンクの据付(～3月)</u> ・施設運転用自家発電設備の製作(2023(令和5)年度まで継続) 柴島浄水場3系の施設運転用自家発電設備の整備 ・ <u>次年度再入札実施に向けた発注準備(～3月)</u> 住吉配水場及び住之江配水場の施設運転用自家発電設備の燃料タンクの増強 ・ <u>次年度再入札実施に向けた発注準備(～3月)</u> 〔プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)〕 柴島浄水場3系の施設運転用自家発電設備の整備	〔アウトカム(成果)指標〕 柴島浄水場3系の施設運転用自家発電設備の整備 ・ <u>2022(令和4)年度中:設計契約を締結</u> ・2025(令和7)年度中:設置完了 〔当年度の取組内容〕 豊野浄水場の施設運転用自家発電設備の整備 ・ <u>施設運転用自家発電設備棟(建屋)の建設(～3月)</u> ・施設運転用自家発電設備の製作(2023(令和5)年度まで継続) 柴島浄水場3系の施設運転用自家発電設備の整備 ・ <u>実施設計契約を締結(4月～9月)</u> 住吉配水場及び住之江配水場の施設運転用自家発電設備の燃料タンクの増強 ・ <u>実施設計契約を締結(4月～9月)</u> 〔プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)〕 柴島浄水場3系の施設運転用自家発電設備の整備	当年度の取組内容のうち、「豊野浄水場の施設運転用自家発電設備の整備」で設備工事の機器納入時期に遅延が生じたことに影響し建屋建設の工程に遅延が生じたため。加えて「柴島浄水場3系の施設運転用自家発電設備の整備」及び「住吉配水場及び住之江配水場の施設運転用自家発電設備の燃料タンクの増強」が、入札不調により当初計画していた上半期中に実施設計契約を締結することができず、業者へのヒアリングの結果、当年度中の再入札が難しいと判断し、令和5年度に契約締結をめざすこととなったため。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>次年度再入札実施に向けた発注準備の完了</u> 住吉配水場及び住之江配水場の施設運転用自家発電設備の燃料タンクの増強 ・ <u>次年度再入札実施に向けた発注準備の完了</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>設計契約を締結</u> 住吉配水場及び住之江配水場の施設運転用自家発電設備の燃料タンクの増強 ・ <u>設計契約を締結</u> 	
--	--	--	--

(令和4年12月改定)

改定箇所	改定後	改定前	改定理由等
<p>経営課題1 具体的取組 1-2-1 【より安全性の高い水道水の供給を目的とした膜ろ過技術の導入検討】</p>	<p>〔当年度の取組内容〕 <u>柴島浄水場の最適先端処理技術実験施設において令和4年3月から順次開始している膜ろ過技術による高度浄水処理と凝集沈澱・砂ろ過による高度浄水処理との比較実験 ～ を継続実施する</u> <u>処理性の安定性確保を検討するためのろ過膜連続運転実験（通年）</u> <u>水質リスクを評価するためのろ過膜洗浄水の水質調査（通年）</u> <u>生物処理能力を評価するための生物ろ過試験（通年）</u> <u>従来型フローの省スペース化を検討するための傾斜版式沈澱池実験（通年）</u></p> <p>〔プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）〕 <u>現行高度浄水処理における膜ろ過技術の有効性について令和6年度末の評価完了に向けた実験が継続されており、次の実験の令和4年度分が完了していること</u> <u>処理性の安定性確保を検討するためのろ過膜連続運転実験</u> <u>水質リスクを評価するためのろ過膜洗浄水の水質調査</u> <u>生物処理能力を評価するための生物ろ過試験</u> <u>従来型フローの省スペース化を検討するための傾斜版式沈澱池実験</u> <u>、 の実験は令和5年度末まで、③、 の実験は令和6年度末まで同様の実験を継続して実施し、データ蓄積を行うことで現行高度浄水処理における膜ろ過技術の有効性の令和6年度末の評価完了に必要な精度の確保を図る。</u></p>	<p>〔当年度の取組内容〕 <u>・柴島浄水場の最適先端処理技術実験施設において令和4年3月から2か年の予定で行っている、膜ろ過技術による高度浄水処理と凝集沈澱・砂ろ過による高度浄水処理との比較実験を継続実施する。</u> <u>・実施後1年分の実験結果を基に、現行高度浄水処理における膜ろ過技術の有効性について中間評価を行い、これを踏まえた比較実験を継続する。</u></p> <p>〔プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）〕 <u>・現行高度浄水処理における膜ろ過技術の有効性について中間評価が完了</u></p>	<p>当初設定の内容を具体的な内容に表現修正することで、中間振り返り、年度末自己評価の客観性をより高めるため。</p>

改定箇所	改定後	改定前	改定理由等
<p>経営課題 2 具体的取組 2-2-1 【配水管の耐震化の推進】</p>	<p>〔アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）〕 災害拠点病院への配水ルート上の管路の耐震化 ・2027(令和9)年度中：工事着手（耐震化完了時期未定）</p> <p>〔当年度の取組内容〕 異第1送水管の耐震化 ・第2工区（全4工区中）の管路更新（令和5年度まで継続） 大淀送水管（庭窪浄水場～柴島浄水場上系間）の耐震化 ・実施設計契約を締結（4月～9月） 浪速枝管の新設 ・シールドトンネルの施工（令和7年度まで継続） 災害拠点病院への配水ルート上の管路の耐震化 ・実施設計（再設計）契約を締結（10月～3月）</p> <p>〔プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）〕 大淀送水管（庭窪浄水場～柴島浄水場上系間）の耐震化 ・設計契約を締結 災害拠点病院への配水ルート上の管路の耐震化 ・実施設計（再設計）契約を締結</p>	<p>〔アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）〕 災害拠点病院への配水ルート上の管路の耐震化 ・2022(令和4)年度中：工事着手（耐震化完了時期未定）</p> <p>〔当年度の取組内容〕 異第1送水管の耐震化 ・第2工区（全4工区中）の管路更新（令和5年度まで継続） 大淀送水管（庭窪浄水場～柴島浄水場上系間）の耐震化 ・実施設計契約を締結（4月～9月） 浪速枝管の新設 ・シールドトンネルの施工（令和7年度まで継続） 災害拠点病院への配水ルート上の管路の耐震化 ・工事契約を締結（10月～3月）</p> <p>〔プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）〕 大淀送水管（庭窪浄水場～柴島浄水場上系間）の耐震化 ・設計契約を締結 災害拠点病院への配水ルート上の管路の耐震化 ・工事契約を締結</p>	<p>「災害拠点病院への配水ルート上の管路の耐震化」について、既設管内に耐震管（ダクタイル鋳鉄管）を挿入して更新するとした工事内容を基本に、これまで工事区間や工期の見直し等を行いながら工事発注してきたが3度の入札不調となっている。そのため、昨年度末に実施した業者ヒアリング等の内容を踏まえ、その他工法の採用も含めて施工方法を見直すこととした。これにより、再設計を行う必要が生じ、今年度に設計業務を契約できたが、工事着手は令和5年度以降となる見通しである。</p>

改定箇所	改定後	改定前	改定理由等
<p>取組項目 2 - 1 【効果的・効率的な事業運営（経常経費の抑制）】</p>	<p>〔取組の内容〕 <u>上半期に有収率が低い地域で、経年管路が比較的多い配水ブロックを選定した。下半期に調査を行うための流量計の調達を行う。</u> 住之江配水場への省エネルギーに配慮したポンプ設備の導入について、上半期に基本検討を終え、年度内に導入時期・実施スケジュールを検討する。 浄水、給配水設備維持管理について、上半期に委託化等効率化を反映した人員配置を実施し、下半期に翌年度の委託化等効率化に向けた要員調整を行い人件費を削減する。 ICT にかかる発注案件については、効果的な支出となるようシステム担当部署と ICT 担当部署が協議し、継続的に予算の適正な執行に努める。</p> <p>〔目標〕 <u>流量計の設置が完了</u> <u>導入時期・実施スケジュールが決定</u></p>	<p>〔取組の内容〕 ・浄水、給配水設備維持管理について、上半期に委託化等効率化を反映した人員配置を実施し、下半期に翌年度の委託化等効率化に向けた要員調整を行い人件費を削減する。 ・ICT にかかる発注案件については、効果的な支出となるようシステム担当部署と ICT 担当部署が協議し、継続的に予算の適正な執行に努める。 ・<u>上半期に有収率が低い地域で、経年管路が比較的多い配水ブロックを選定して調査を開始し、下半期に微小漏水を把握するとともに、漏水発生要因を分析する。</u> ・住之江配水場への省エネルギーに配慮したポンプ設備の導入について、上半期に基本検討を終え、年度内に導入時期・実施スケジュールを決定する。</p> <p>〔目標〕 <u>・2023(令和5)年度予算の編成において経常費用 560 億円(税抜)以下</u> <u>・2023(令和5)年度予算の編成において経常収支比率 100%以上</u></p>	<p>有収率の分析に関する取組について、配水ブロック内の水量調査に用いる流量計の機器仕様の検討において、設置予定の弁室内に収まり、かつ、長時間連続測定が可能である機器を選定したところ、この機器が注文生産品であり、調達に時間を要することが判明し、設置が今年度中となる見込みとなったため。なお、微小漏水の把握などの要因分析は来年度となる予定。 また、当年度の取組内容に、より適したプロセス指標へ変更するため。</p>

改定箇所	改定後	改定前	改定理由等
取組項目 2 - 4 【効果的・効率的な事業運営（組織体制の最適化）】	〔目標〕 ・2023（令和5）年度予算における「職員1人当たりの給水量」300 千m ³ /人以上とする。	〔目標〕 ・2022（令和4）年度予算における「職員1人当たりの給水量」300 千m ³ /人以上とする。	当年度の取組内容に、より適したプロセス指標へ変更する。

改定箇所	改定後	改定前	改定理由等
取組項目 2 - 5 【効果的・効率的な事業運営（管路施設の点検精度の向上）】	〔取組の内容〕 ・上半期：補剛部材を有する独立水管橋など2橋で、試行的にドローンによる点検を実施し、目視点検が困難な箇所の撮影を行う。 ・上半期：撮影した画像と前年度の点検結果（遠方目視）の比較等を行い、その効果を確認する。 ・下半期：ドローンによる点検の有効性が確認できた場合に、目視確認の困難な箇所に対するドローン点検の業務委託契約を進める。 〔目標〕 ・ドローンを用いて点検を実施し、既存の点検（遠方目視）との比較評価を完了。	〔取組の内容〕 ・上半期：近接での目視点検が困難な独立水管橋13橋のうちで10橋を対象にドローンによる点検実施に向け詳細に検討する。 ・下半期：ドローンによる点検を実施し、撮影した画像と前年度の点検結果（遠方目視）の比較等を行い、その効果を確認する。 〔目標〕 ・ドローンを用いて点検を実施し、既存の点検（遠方目視）との比較評価を完了。	ドローン点検の試行実施により有効性（既存の点検（遠方目視）との比較評価を完了）を確認できたことから、取組内容を変更する。 また、改定前の点検対象である10橋を含む全23橋程度の水管橋のドローン点検業務委託契約を実施する。

改定箇所	改定後	改定前	改定理由等
<p>取組項目 3 - 1 【人材育成・職場力の向上（暗黙知の形式知化とナレッジマネジメントシステムの構築）】</p>	<p>〔取組の内容〕 ・ナレッジデータの作成・蓄積に向けた実行計画の策定。 ・ナレッジマネジメントシステム(以下「システム」という。)の運用開始。 <上半期> ・各部門ごとに実行計画(3か年)を作成した。 <下半期> ・各部門作成の実行計画について、事務局において進捗管理を行うとともに、システムの全体管理を行う。 ・各部門にデータ管理権限を附し、ナレッジデータの蓄積促進及び、各部門の特性に合わせた整理を行うことによるアクセス性やユーザビリティの改善を実施する。</p> <p>なお、次の取組みにより、各部門において暗黙知の洗い出し、ナレッジデータの蓄積を進めている。 【計画・設計部門】 <上半期> ・コア業務(重要性が高く、業務品質を維持する必要性が高い業務など)を中心に、既存マニュアル等で業務を遂行する際に、新しい気づきなど組織共有が必要な暗黙知を整理することを目的として、職員へのヒアリングを行い、新たに継承すべき暗黙知の洗い出しを行った。 <下半期> ・洗い出した暗黙知の中から、業務品質を維持するために重要となる管理ポイントを中心に既存マニュアルに補完する必要があるものをナレッジデータ化し、ノウハウ集としてまとめる。</p> <p>・上半期に実施した職員ヒアリングでの暗黙知</p>	<p>〔取組の内容〕 ○「形式知」化されたナレッジデータによる継承 ・ナレッジデータの作成・蓄積に向けた取組 <上半期> 蓄積計画の作成 <下半期> 暗黙知の洗い出し</p> <p>・ナレッジマネジメントシステムの構築 <通年> ナレッジデータを体系的に整理しプロジェクトサイトにおいて共有 プロジェクトサイト及びナレッジデータの更新管理</p> <p>・ナレッジデータの活用促進・情報発信 <上半期> リモートアクセスによるナレッジデータ活用促進の周知 OJTによるナレッジデータ活用状況の情報発信(局報及び研修情報誌 STEP) <下半期> OJTによるナレッジデータ活用状況の情報発信(局報及び研修情報誌 STEP)</p> <p>○目標達成に向けた調査 <下半期> 職員アンケートにおいて、OJTにおける活用状況の把握 中堅・若手職員が必要とするナレッジデータの抽出</p>	<p>当初設定の内容を具体的な内容に表現修正することで、中間振り返り、年度末自己評価の客観性をより高めるため。</p>

	<p><u>の洗い出し方法の改善点の検証と確立を行う。</u></p> <p>【水道センター部門】 <u><上半期></u> ・災害時対応において必要となる「断通水作業」を対象とし、職員が有する暗黙知となっているスキル、ノウハウを洗い出すためのヒアリングを実施した。 ・職員のレベルに応じ、スキル、ノウハウを効率的、効果的に取得できるよう、ナレッジデータを活用した研修手法の整理を行った。 <u><下半期></u> ・実技研修や OJT の実施スキーム及び講師の選定・育成方法を整理する。 ・職員の力量把握のための効果測定手法の検討を行う。 ・整理した手法による研修を一部試行実施し、有効性の確認を行う。</p> <p>【浄水部門】 <u><上半期></u> ・過去、浄水部門で発生したインシデント（事故・ヒヤリハットなど）事例の振り返り（原因分析）を目的とした職員ヒアリングを行い、重要管理ポイントとして形式知化すべき暗黙知の洗い出しを行った。 ・暗黙知の洗い出しが効果的に実施できるよう、ルール化を行った。 <u><下半期></u> ・上半期に整理した暗黙知を形式知化し、ナレッジデータとして共有するとともに、作業マニュアルへの反映、作業マニュアルの見直しを実施する。</p> <p>・引き続き職員ヒアリングを行い、継承すべき暗黙知の洗い出しを実施する。</p>		
--	---	--	--

	<p>・上半期にルール化した暗黙知の洗い出し手法の改善点の検証を実施する。</p> <p>【事務系の各部門…総務、企画、官民連携、広域連携・海外支援、お客さまサービス】</p> <p><上半期></p> <p>・各課で暗黙知を洗い出し、事務処理誤り防止、業務品質の確保などの観点で重要管理ポイントとして見える化に着手した。</p> <p><下半期></p> <p>・事務局において、各部門の事務から広く、見える化されていない暗黙知を洗い出すツールとして、標準化した手順書の作成を行う。</p> <p>・手順書を提示し、各部門で、暗黙知の洗い出し、見える化に向けた作業に取り組む。</p>		
--	--	--	--